

令和5年度国際文化交流学科一般入試（中期日程）

小論文

I. 出題意図

哲学者である内山節のグローバル化と地域社会の豊かさに関するエッセイからの出題。文章の内容の理解力、自らの意見を適切な文章で表現する力、そして現代社会に対する見解の独創性をみる。第一問では、下線部の「矛盾」の内容を適切に把握する読解力と内容を字数制限内にまとめる文章力を問う。第二問は、筆者が下線部以降で展開している、日本の豊かさの内容を把握できているかを問う。第三問は、本文全体の理解だけではなく、筆者の主張する現代世界の矛盾に対して、解答者自身が、いかに独創的な見解を提示できるのかを問う。とくに第三問では、筆者の論述の内容を適切に把握する読解力、国際的な状況と日本社会を同時に分析することのできる複眼的な思考力、そして自身の思考を他者に伝わるように表現する文章力が問われる。

II. 出題意図

技術と人との関係についての研究で知られる久保明教氏の著書からの出題。本文では、テクノロジーと人間を明確に区別できるという近代の発想が批判されるとともに、「生成」という観点から、テクノロジーと人との関係を考えるための新たな視座が提示されている。テクノロジーをめぐる「自律説」と「道具説」の違いや、それに対する筆者の立場を正確に理解したうえで、それを自らの言葉で端的に説明することができる能力が解答に際して求められる。